

関西伸銅工業がエムチューブ吸収合併

新「エムチューブ」発足へ

市原金属産業グループ再編

非鉄流通大手の市原金属産業（本社・名古屋）が、関西伸銅工業（大阪府羽曳野市、社長同）を吸収合併し、「エムチューブ」を10月1日付で吸収合併し、「エムチューブ」を手掛ける。売上高は年間約21億円。従業員数は22人。エムチューブは旧社名松林金属と銅・銅合金管を月85ト

67年設立の国内唯一の黄銅素管専業メーカーのエムチューブ（和）C2600TおよびC2700Tを主力とし、14年に大阪府堺市から現在地に工場を移転する。両社は黄銅管の工程

に約33億円、従業員数は38人。両社は黄銅管の工程

における川上と川下の関係。関西伸銅工業が黄銅素管を供給し、エムチューブが伸管を行い市場に向け出荷している。また、エムチューブは他の伸管メーカー向けに関西伸銅工業が製造した黄銅素管の販売窓口にもなっている。今回の経営統合により生産、購買、販売、財務、管理など多方面にわたり効率化を進め、収益力の強化を目指す。

今回の吸収合併で関西伸銅工業を存続会社とし、エムチューブを吸収する。社員は継続雇用される。新生「エムチューブ」の資本金は1億円、決算月は9月。社長に市原社長が

就き、本社を関西伸銅工業の現本社である羽曳野市に置く。現エムチューブは統合後「橋本工場」となる。市原社長は「我々を最大限發揮し、世の中の激しい変化を繰り返してはならない。魅力ある会社にしていきたい」としている。